「おくのほそ道」尾花沢

～芭蕉と曾良　さまざまにもてなしはべる～

元禄2年（1689年）3月27日（陽暦5月16日）　松尾芭蕉は、弟子の河合曾良をともなって江戸深川を出発し、奥羽－北陸の旅に出ました。尾花沢には、山刀伐峠を越え、5月17日（陽暦7月3日）、昼過ぎ旧知の鈴木清風宅に着き、5月27日まで10泊滞在し、鈴木清風を取り巻く俳人達の"もてなし"を受けました。

元禄2年（1689年）**5月17日**（陽暦7月3日）
松尾芭蕉と河合曽良は「おくのほそ道」の旅で、山刀伐峠を越え、昼過ぎ旧知の鈴木清風宅に着き、この日は清風宅に泊まった。

5月18日（陽暦7月4日）
昼、養泉寺で風呂に入り、この日から養泉寺に延べ7泊した。

5月19日（陽暦7月5日）
村川素英が養泉寺で奈良茶飯をご馳走した。

5月20日（陽暦7月6日）
小雨　記事なし

5月21日（陽暦7月7日）
朝、鈴木小三郎（東水）宅、晩、沼沢所左衛門（遊川）宅に招待され、この夜は清風宅に泊まった。

5月22日（陽暦7月8日）
晩、村川素英に招待された。

5月23日（陽暦7月9日）
夜、沼沢藤左衛門氏富（秋調）に招待された。この夜、日待ち（ひまち）の行事があり、その夜は清風宅に泊まった。

5月24日（陽暦7月10日）
晩、田中藤十郎（一橋）が養泉寺でもてなした。

5月25日（陽暦7月11日）
夜、沼沢藤左衛門氏富（秋調）が庚申待（こうしんまち）に招待した。

5月26日（陽暦7月12日）
昼より沼沢所左衛門（遊川）宅において歌川平蔵（東陽）がもてなした。

5月27日（陽暦7月13日）
晴れ、午前6時30分ごろ尾花沢から山寺立石寺へ向かった。鈴木清風が楯岡まで馬を用意してくれた。

尾花沢ゆかりの句

※歌仙「すずしさを」と「おきふしの」の二巻を巻いています。

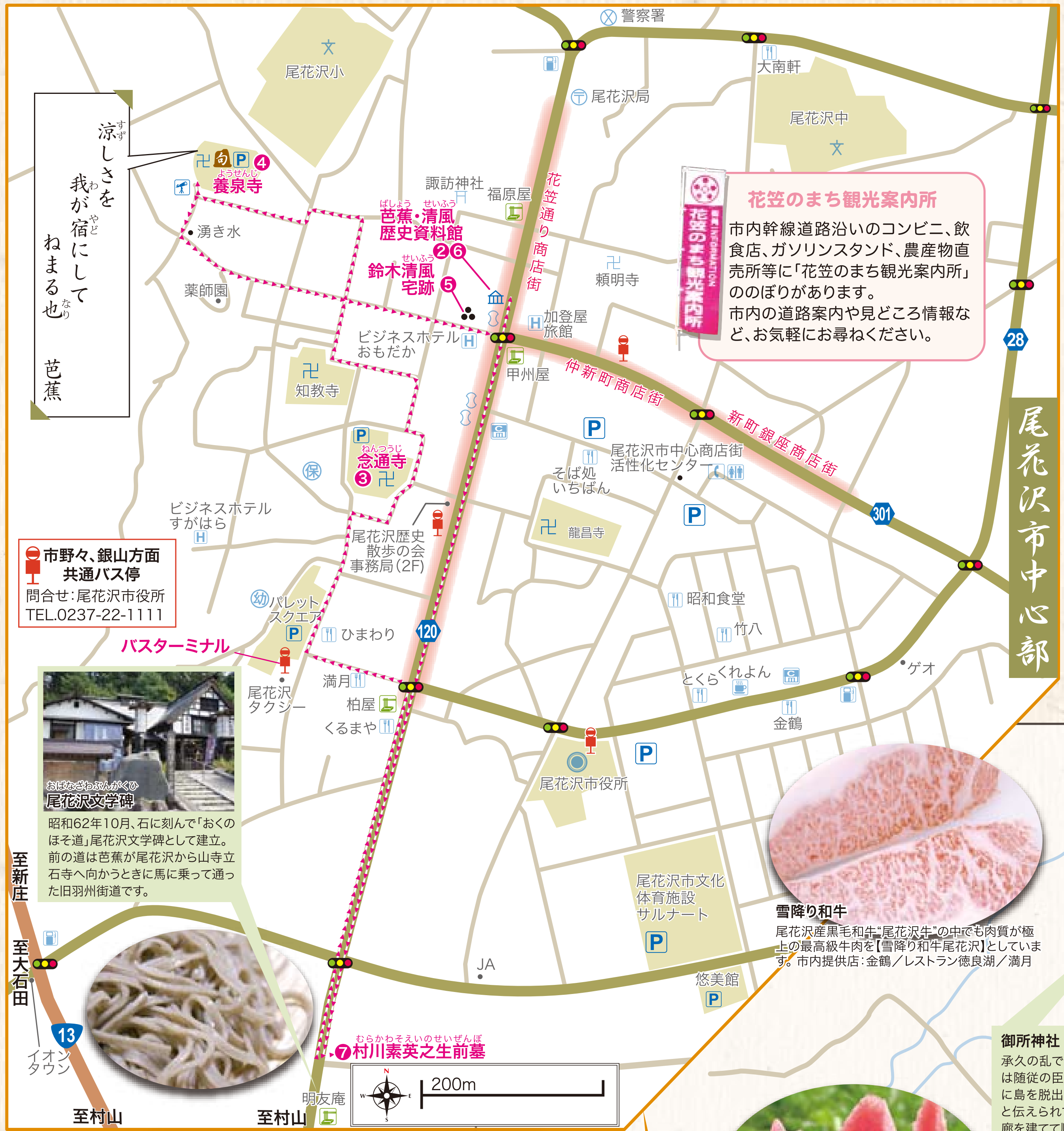
涼しさを
我宿にして
ねまる也　芭蕉
④句

這出よ
かひやが下の
ひきの声　芭蕉

まゆはきを
俤にして
紅粉の花　芭蕉

蚕飼する
人は古代の
すがた哉　曾良

尾花沢市中心部


警察署
尾花沢小
大南軒
尾花沢局
尾花沢中
④ 養泉寺
諏訪神社
福原屋
湧き水
芭蕉・清風歴史資料館 ②⑥
鈴木清風宅跡 ⑤
薬師園
頼明寺
加登屋旅館
ビジネスホテルおもだか
甲州屋
知教寺
花笠通り商店街
仲新町商店街
新町銀座商店街
念通寺 ③
尾花沢市中心商店街活性化センター
そば処いちばん
龍昌寺
ビジネスホテルすがはら
尾花沢歴史散歩の会事務局(2F)
パレットスクエア
ひまわり
昭和食堂
竹八
バスターミナル
尾花沢タクシー
満月
柏屋
くるまや
とくら
くれよん
ゲオ
金鶴
尾花沢市役所
尾花沢市文化体育施設サルナート
悠美館
JA
至新庄
至大石田
イオンタウン
⑦村川素英之生前墓
明友庵
至村山
至村山
200m
28
120
301
13

涼しさを
我が宿にして
ねまる也
芭蕉

花笠のまち観光案内所

市内幹線道路沿いのコンビニ、飲食店、ガソリンスタンド、農産物直売所等に「花笠のまち観光案内所」ののぼりがあります。
市内の道路案内や見どころ情報など、お気軽にお尋ねください。

市野々、銀山方面共通バス停
問合せ：尾花沢市役所
TEL.0237-22-1111

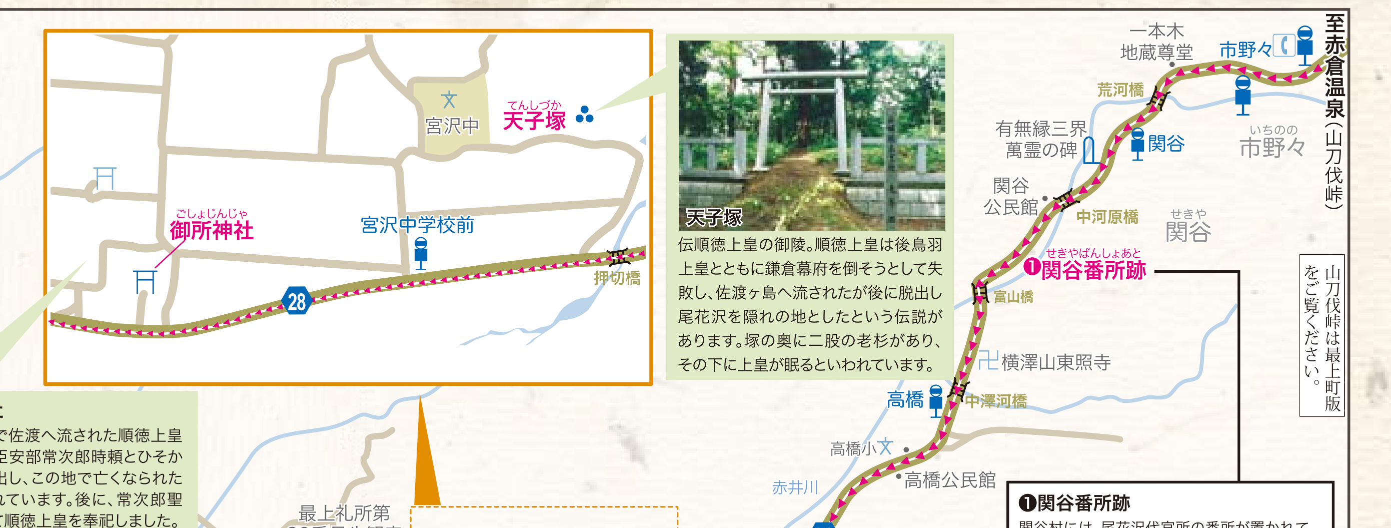
尾花沢文学碑

昭和62年10月、石に刻んで「おくのほそ道」尾花沢文学碑として建立。前の道は芭蕉が尾花沢から山寺立石寺へ向かうときに馬に乗って通った旧羽州街道です。

雪降り和牛

尾花沢産黒毛和牛"尾花沢牛"の中でも肉質が極上の最高級牛肉を【雪降り和牛尾花沢】としています。市内提供店：金鶴／レストラン徳良湖／満月

Ⓓ 尾花沢市内


宮沢中
天子塚
御所神社
宮沢中学校前
押切橋
28
至赤倉温泉（山刀伐峠）
一本木地蔵尊堂
市野々
荒河橋
有無縁三界萬霊の碑
関谷
関谷公民館
中河原橋
❶関谷番所跡
富山橋
横澤山東照寺
高橋
中澤河橋
高橋小
赤井川
高橋公民館

天子塚

伝順徳上皇の御陵。順徳上皇は後鳥羽上皇とともに鎌倉幕府を倒そうとして失敗し、佐渡ヶ島へ流されたが後に脱出し尾花沢を隠れの地としたという伝説があります。塚の奥に二股の老杉があり、その下に上皇が眠るといわれています。

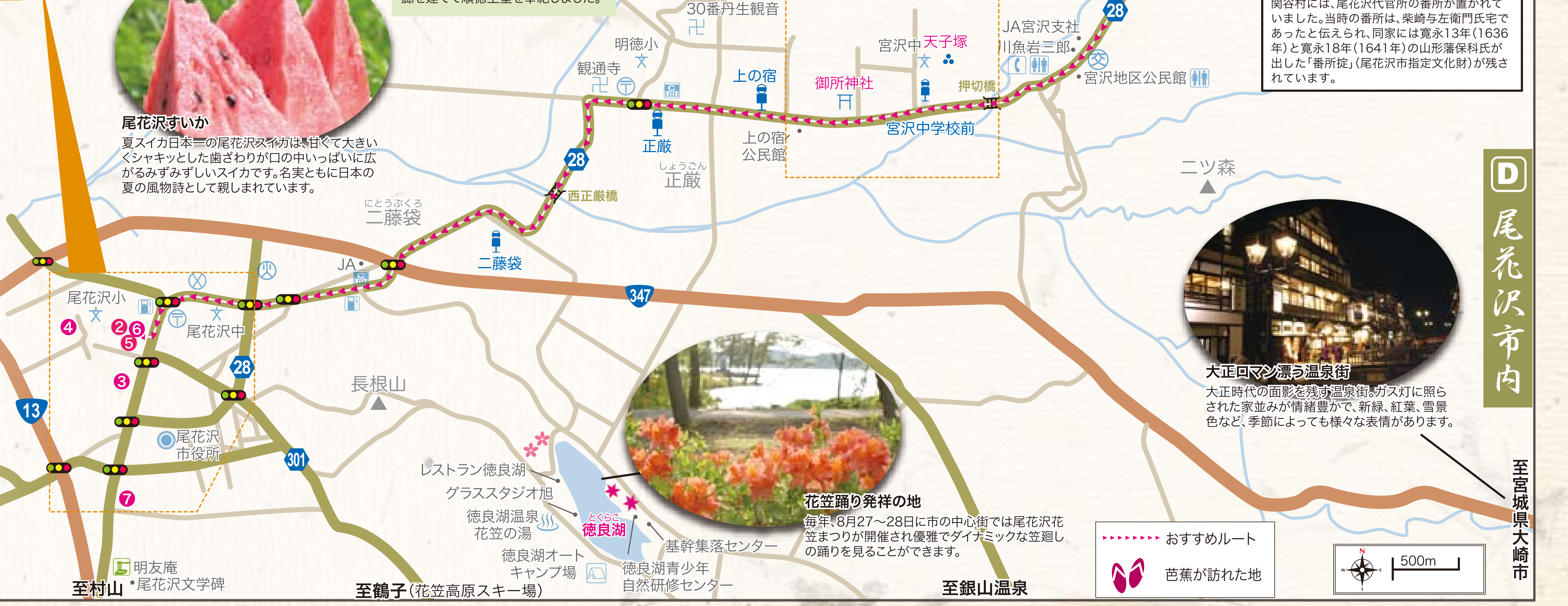
御所神社

承久の乱で佐渡へ流された順徳上皇は随従の臣安部常次郎時頼とひそかに島を脱出し、この地で亡くなられたと伝えられています。後に、常次郎聖廊を建てて順徳上皇を奉祀しました。

❶関谷番所跡

関谷村には、尾花沢代官所の番所が置かれていました。当時の番所は、柴崎与左衛門氏宅であったと伝えられ、同家には寛永13年（1636年）と寛永18年（1641年）の山形藩保科氏が出した「番所掟」（尾花沢市指定文化財）が残されています。

山刀伐峠は最上町版をご覧ください。


最上札所第30番丹生観音
明徳小
観通寺
上の宿
上の宿公民館
正厳
宮沢中
天子塚
御所神社
押切橋
宮沢中学校前
JA宮沢支社
川魚岩三郎
宮沢地区公民館
二ツ森
28
西正厳橋
二藤袋
JA
347
尾花沢小
尾花沢中
尾花沢市役所
長根山
301
13
至新庄
至寒河江
至大石田
至村山
明友庵
尾花沢文学碑
レストラン徳良湖
グラススタジオ旭
徳良湖温泉花笠の湯
徳良湖
徳良湖オートキャンプ場
基幹集落センター
徳良湖青少年自然研修センター
至鶴子（花笠高原スキー場）
至銀山温泉
至宮城県大崎市
おすすめルート
芭蕉が訪れた地
500m

尾花沢すいか

夏スイカ日本一の尾花沢スイカは、甘くて大きいくシャキッとした歯ざわりが口の中いっぱいに広がるみずみずしいスイカです。名実ともに日本の夏の風物詩として親しまれています。

花笠踊り発祥の地

毎年、8月27～28日に市の中心街では尾花沢花笠まつりが開催され優雅でダイナミックな笠廻しの踊りを見ることができます。

大正ロマン漂う温泉街

大正時代の面影を残す温泉街。ガス灯に照らされた家並みが情緒豊かで、新緑、紅葉、雪景色など、季節によっても様々な表情があります。

大石田町をご覧ください。（裏面）

❸念通寺

花邑山念通寺は寛永7年（1630年）に花邑浄願坊によって創建された真宗大谷派の寺で、本堂伽藍は、鈴木家三代目八右衛門・清風の私財により建立されました。竣工は、起工から2年の歳月を経た元禄10年（1697年）。

❹養泉寺

尾花沢10泊のうち7泊を、芭蕉たちはこの養泉寺で過ごしました。これは気兼ねなく長旅の疲れを癒してもらうという、清風のはからいによるものです。境内には芭蕉が詠んだ「涼しさを我宿にしてねまる也」の句碑、いわゆる「涼し塚」と、芭蕉や清風たちの歌仙の連句碑があります。

❼村川素英之生前墓

素英は芭蕉の滞在中、清風に代わって接待役を務めた俳人です。上町観音堂には素英の生前墓があります。四角いシンプルな造りで、「村川素英之生前墓」と書かれた標柱があります。

各名所の詳しい情報は、右記のQRコードで携帯電話から簡単にアクセスすることができます。（通信料がかかります。）

❷・❸・❹・天子塚の写真は尾花沢市役所提供

尾花沢中心部　おすすめルート

尾花沢バスターミナル
▼（4分）
③【念通寺】
▼（7分）
④【養泉寺】
▼（7分）
⑤鈴木清風宅跡
▼
⑥【芭蕉・清風歴史資料館】
▼（20分）
⑦【村川素英之生前墓】
▼（10分）
尾花沢バスターミナル

尾花沢市内（宮沢地区～中心部）おすすめルート

市野々
▼（20分）
❶関谷
▼（70分）
正厳
▼（20分）
二藤袋
▼（40分）
❷【芭蕉・清風歴史資料館】

尾花沢市歴史散歩の会

松尾芭蕉が訪れ、多くの人たちと交流した"みちのくの世界"をゆったりとした時間の中で、新たな自分を発見してみませんか。「おくのほそ道」出羽路をご案内いたします。

■案内時間　9:00～16:30（要予約）
■お問合せ　山形県尾花沢市上町2-4-45-204
TEL.0237-53-0246

❷❻芭蕉・清風歴史資料館

鈴木清風邸跡のとなりに商家の建ものを移築したもので、江戸時代末期の町家の姿を今に伝えています。展示は「おくのほそ道」関係を中心に、尾花沢の歴史や暮らしに関するものを集めています。

■開館時間9:00～16:30（11月～2月までは9:30から）
■入館料大人200円、学生100円、中学生以下無料
■お問合せ 山形県尾花沢市中町5番36号 TEL.0237-22-0104